

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2023年 第26週（6月26日～7月2日）

今週のコメント

～ヘルパンギーナ～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「ヘルパンギーナ 警報レベル続く」

第26週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は3,283例であり、前週比8.1%減であった。定点あたり報告数の第1位はヘルパンギーナで以下、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ7.12、3.70、2.38、1.78、0.84である。

ヘルパンギーナは前週比6%減の1,382例で、大阪市北部11.43、北河内10.04、中河内7.41、三島7.38、堺市・大阪市南部7.00であった。

感染性胃腸炎は1%増の718例で、三島5.81、南河内5.13、中河内4.71である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は1%減の462例で、中河内3.71、大阪市南部3.61、南河内2.88であった。

RSウイルス感染症は31%減の345例で、大阪市北部3.50、南河内2.81、北河内2.24である。

咽頭結膜熱は4%減の163例で、大阪市南部1.67、大阪市東部1.20、堺市1.11であった。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は前週比16%増の1,754例で、定点あたり報告数は5.93である。堺市7.28、北河内7.00、豊能6.60、南河内6.38、泉州5.44であった。5類感染症に変更後、第20週以降7週連続で増加している。

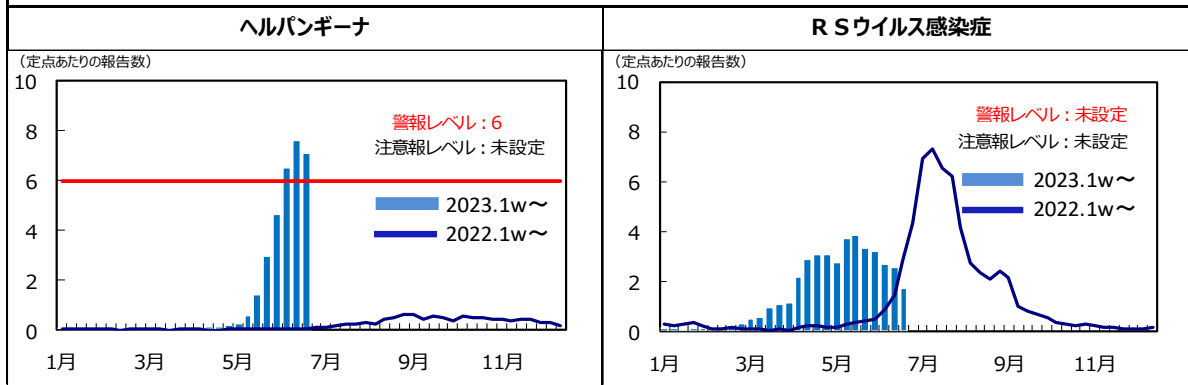


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2023年 第26週6月26日～7月2日）

第26週の順位	第25週の順位	感染症	2023年 第26週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2022年 第26週の 定点あたり 報告数	2023年第26週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	ヘルパンギーナ	7.12	6%減	0.06	1歳_20%
2	2	感染性胃腸炎	3.70	1%増	5.21	1歳_15%
3	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.38	1%減	0.29	5歳6歳_18%
4	3	RSウイルス感染症	1.78	31%減	2.67	1歳未満_35%
5	5	咽頭結膜熱	0.84	4%減	0.63	1歳_24%
参考		新型コロナウイルス感染症 (COVID-19定点報告疾患)	5.93	16%増	-	10歳-19歳_19%

新型コロナウイルス感染症は、定点種別が異なるため、参考として記載しています。

詳細はリンク先の『令和2年11月2日以降』の情報をご覧ください。

突発性発疹については、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。

第26週のコメント

～ライム病～ マダニに刺されないことが重要である

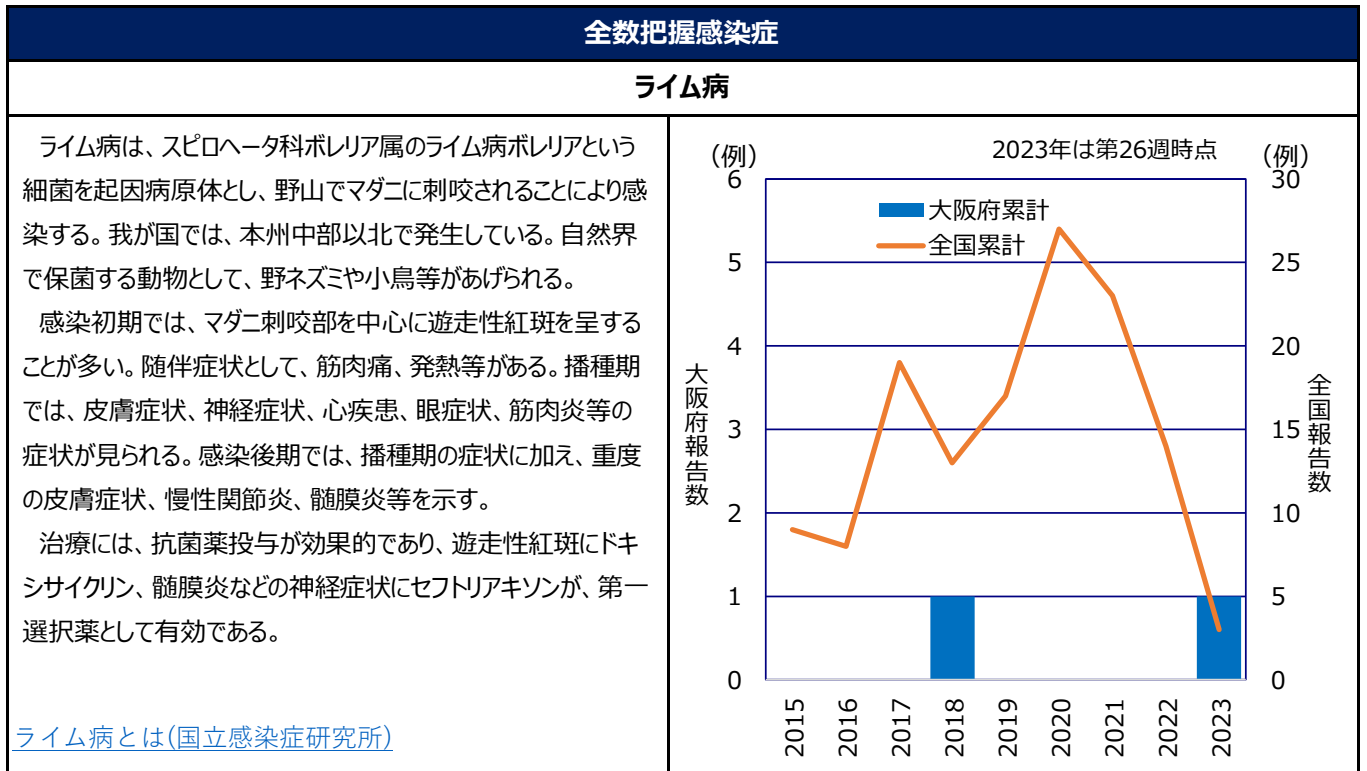


表 2. 大阪府全数報告数 (2023年 第26週6月26日～7月2日)

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	6		1	2					3	60
4類感染症	ライム病	1			1						1
	レジオネラ症 (肺炎型)	3	1	1		1					67
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2	1							1	67
	急性脳炎	1							1		13
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2		1						1	34
	侵襲性肺炎球菌感染症	2								2	76
	梅毒	16			2		2			12	1,026
	風しん	1								1	2
結核 (2023年5月分)	結核 新登録患者数：106名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 34名) (府内累積報告数 470名、内 肺・喀痰塗抹陽性 164名)										

(2023年7月4日 集計分)